

「とうかい環境フェスタ2017withキャンドルナイト」キャンドルアート作品募集!

東海村の夏の風物詩である「環境フェスタ2017withキャンドルナイト」。今年もキャンドルナイトを彩る「キャンドルアート」を募集します。個人はもちろん、学校やサークル、身近な仲間同士で思い思いのキャンドルアートを作って、とうかいキャンドルナイトと一緒に盛り上げてみませんか。当日は作品展示のほか、コンテストを開催します!



【日時】7月22日(土) 午後6時30分～8時30分
(小雨決行)※展示準備が午後3時～6時、後片付けが午後8時30分～9時となります。

【場所】東海村役場(中庭) ※展示場所等は6月に開催予定の事前説明会でご連絡します。

【内容】縦横3メートル以内、高さ2メートル以内

【定員】先着15組

【参加費】無料

【その他】参加賞(出展者)、記念品(コンテスト入賞者)があります。

【申し込み・問い合わせ】とうかい環境

村民会議事務局(役場行政棟4階 環境政策課内
内線1454 FAX287-0479 E:kankyou@vill.tokai.
ibaraki.jp)から募集要領と申込書入手の上、
6月5日(月)までに申し込みください。

東海村の南部は、台地と低地が入り組んだ複雑な地形をしています。ひたちな市との境界を流れる新川の近くでは、台地の縁部が長い時間をかけて浸食され、谷状の地形(谷津)が形成された様子を観察することが出来ます。このような谷津は、周囲の台地より標高が低いため水が集まりやすく、古くから水田として利用されてきました。



ケシムラサキチャワンタケ
(須和間地内、菊池芳文博士提供)

谷津を取り囲む斜面には、台地から流れ込む水が湧水となつて染み出しています。このように水が豊富な谷津は、水辺を好む生物に適した生息環境です。また、谷津とその周囲は、高低差のある複雑な地形のため開発されにくいことから、森林が残存することが多く、豊かな生物多様性を育む環境です。村の谷津にも、トウキョウサンショウウオやモウセンゴケなど、個体数の減少が危惧される希少な生物が分布していることが知られています。村の谷津には、「ケシムラサキチャワンタケ」という風変わりなキノコが分布します。このキノコは、コナラやシラカシなどの広葉樹に覆われ、湧水が染み出す谷津の斜面に、春から初夏にかけて発生します。大きさは直径1～4センチメートルほどで、平たい皿形をしています。色は表面が赤褐色から紫褐色、裏面は褐色を帯びた乳白色です。湧水で湿った斜面の砂や泥、粘土質の土の表面に発生する様子は、キノコとは思えないような姿をしています。

ケシムラサキチャワンタケは、日本では1990年に筑波山で初めて発見されました。その後、東京都や千葉県などでも観察されていますが、いずれも発生環境は広葉樹に覆われた湿潤な地表です。村では、2005年に2か所の谷津の斜面でこのキノコが発見されましたが、その後の観察例は少なく、まれなキノコです。ケシムラサキチャワンタケの発生に適した環境は、森林や谷津の荒廃・造成等により減少しつつあると推測されます。なお、このキノコは食用には適しませんので、発見してもむやみに採集しないようにしましょう。

ふるさと歴訪
自然を探して

ケシムラサキチャワンタケ

千葉科学大学専任講師

糟谷 大河